

---

# リハビリテーション天草病院だより

---

2019年10月

No. 92



発行 埼玉県越谷市平方343-1 / (医) 敬愛会広報委員会

---

## 地域包括ケアシステムと地域包括ケア病棟

医療法人敬愛会 理事長 天草 大陸

「地域医療構想」は、病床の機能分化・連携を進めるために、高度急性期、急性期、回復期、慢性期の4機能ごとに2025年の医療需要と病床の必要量を推計し、これを達成するように定めたものです。この分化・連携を推進するに当たり在宅医療等の充実なども「構想」の中で重要な位置づけとなっています。2016年度中に全都道府県が策定を終えました。

全国的に見ておしなべて急性期病床が大幅過剰で約3割縮減(23万床減)、回復期病床が大幅不足で約3倍に拡充(24.6万床増)という推計結果になりました。既に病床数の見直しに着手し2025年の目標達成を目指して各都道府県で徐々に調整が進んでいます。基本的には、急性期病床から回復期病床への病床転換での調整と言えます。

### 【地域包括ケアシステムとは】

団塊の世代が75歳以上となる2025年を目途に、重度な要介護状態となっても、住み慣れた地域で自分らしい暮らしを人生の最後まで続けることができるよう、住まい・医療・介護・予防・生活支援の5つの機能が、一体的に提供される地域社会体制を築きあげる—この体制を地域包括ケアシステムと言います。最大の課題は在宅医療の充実かと思えます。在宅医療とは、平たく言えば通院が困難な在宅療養者に対する「定期的な往診」です。そこで問題となるのは、在宅療養者の病状が急変し在宅医療での対応が困難となった場合です。例えば、肺炎や骨折などを併発した場合です。入院加療を必要とする方の受け皿となる病床

が余りにも未整備で極端に不足しているのです。急性期病院で対応すれば良いのではないかと考える方もいらっしゃると思いますが、結論だけ述べますと、それは非効率で「寝たきり患者」を増やすだけのことになります。そこで登場するのが下記の病棟になります。

### 【地域包括ケア病棟とは】

4病床機能のうち回復期に位置づけられます。回復期病棟は地域包括ケア病棟と回復期リハビリ病棟に分けられます。地域包括ケア病棟には3つの機能があります。即ち、①病名は問わないが、在宅や特別養護老人ホームなどの施設で急変増悪した方を受け入れる②必要な方にはリハビリを提供し60日以内に7割以上の方を元の生活の場に復帰させる③急性期病院で急性期の治療を終えた患者さんを受け入れる—これらの機能です。なぜ、この病棟の名称が「地域包括ケア病棟」になったのか、なぜ、回復期に位置づけられるのかなど理解困難な方が大勢いらっしゃると思いますが、「地域包括ケアシステム」の中で、この病棟の在り方を考えた結果からかと思えます。しかし、とにかく「地域包括ケア病棟」は回復期リハビリ病棟などと比べれば非常に分かりにくい名称です。改称を強く望みます。

### 【地域包括ケア病棟に期待される役割】

上記機能の実現。特に、①と②。原則、「かかりつけ医」等から入院依頼があった場合は断らない。入院中に日常生活動作(ADL)の悪化を来さないように積極的にリハビリを提供。亜急性期病棟としての役割に期待します。

## リハビリ病棟の分類について

リハビリテーション天草病院 総合企画部長 杉本 和哉

リハビリは、急性期・回復期・生活期の3つに分類されており、急性期から回復期が医療、生活期が介護の領域となっております。

回復期のリハビリを担う病棟には、地域包括ケア病棟と回復期リハビリテーション病棟の2つがあります。リハビリの提供量で見ますと、地域包括ケア病棟の基準が1日2単位(40分)以上であるのに対し、回復期リハビリテーション病棟では1日6単位(120分)以上となっておりますので、回復期リハビリテーション病棟はリハビリに特化した病棟であるといえます。

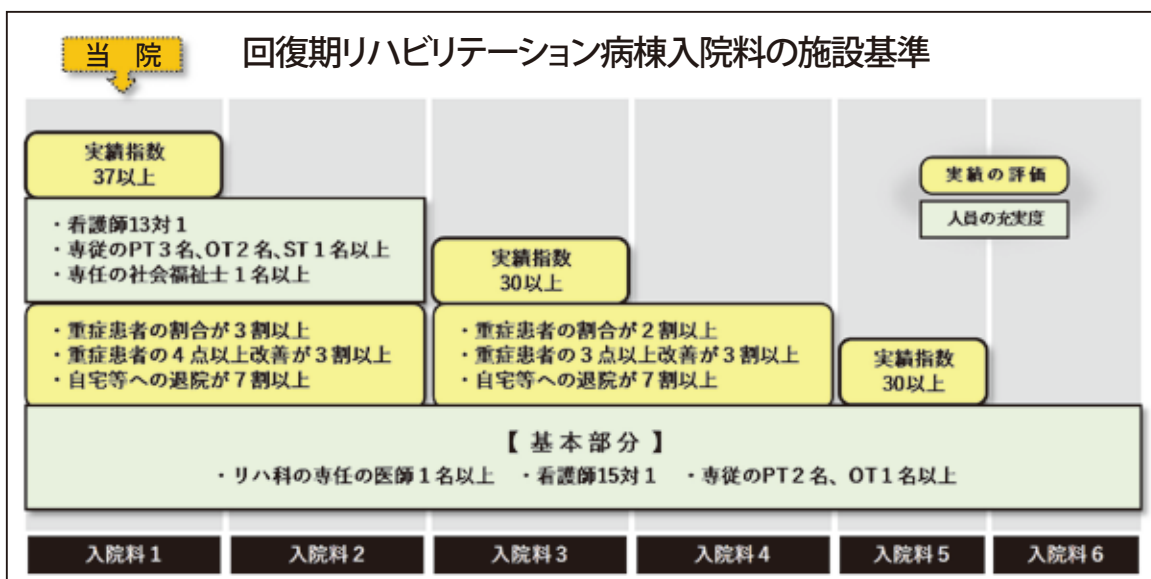
“急性期での治療・リハビリに引き続いて、脳卒中や大腿骨頸部骨折などの特定の患者さんを対象に、多職種によるチームアプローチを提供し、在宅復帰を強力に支援すること”が、回復期リハビリテーション病棟に求められている機能となっており、リハビリに係わる専門職の充実度やリハビリの実績などによ

り、下図の6段階の回復期リハビリテーション病棟入院料が設定されています。

当院が算定する入院料は、3病棟全てが最も高い基準が定められている回復期リハビリテーション病棟入院料1となります。人員の充実度では、基準を大きく上回る療士士(PT・OT・ST)が配属されているのが特徴となります。実績評価では、実績指数37以上に対し52.1、重症患者の4点以上の改善率3割以上に対し7割以上、在宅復帰率7割以上に対し8割以上と高い実績を残しております。

この他に、医師や社会福祉士の充実度を評価した体制強化加算1や、経口摂取困難な状態からの回復率3割5分以上(当院5割以上)が条件となっている経口摂取回復促進加算1も算定しております。

今後も、より多くの方に満足して頂けるリハビリサービスを提供していけるよう努めて参りますので、ご期待下さい。



## 「初めての入院」

越谷市 名倉 清

私は今日まで大きな病気やケガをする事もなく約半世紀の人生を過ごして来ましたが、50歳の誕生日を目前にした平成31年1月16日、突然の病に襲われたのです。

その日はいつもの様に仕事を終えて22時前位に帰宅をし、夕飯・入浴を済ませて23時半頃には自分の部屋でテレビを観たりなどして就寝前の時間を過ごしていました。カーペットの上で正座をする形でテーブル上のパソコンを操作していた時、左脚に痺れを感じたので左手でその脚をさすり始めましたが、その手にも痺れがある事に気付いた瞬間、瞬く間に左側に転倒してしまったのです。正座で脚が痺れ、ただバランスを崩しただけと思いきよとしましたが左半身に全く力が入らず起き上がる事が出来ない状態になっていました。疲れのせいで一時的なものかな？と思った次の瞬間、予期せぬ尿失禁が起こり、只事ではない事をその時に理解しました。父と2人で住んでいましたが、動けない状態だったので父の部屋に行く事が出来ません。幸いにも携帯電話が手元にあったので深夜1時半でしたがダメ元で近くに住む姉に電話をしました。運良く繋がり、呂律が回っていない事に気付いた姉が救急車の手配をしてくれて、越谷市立病院に搬送されました。検査の結果、右被殻出血で要手術となり、その日のうちに手術をして即入院となったのです。40代になってから健康診断に於いて毎回の高血圧の診断が出ていたにもかかわらず、大丈夫だろうと自己判断で放っておいた結果です。手術も無事に終わり点滴・飲薬にて血圧も安定し

ましたが、脳出血の結果左半身に重い麻痺が残ってしまい、リハビリが必要との判断から天草病院を紹介頂きました。天草病院はリハビリ病院として有名で評価も高いと聞いておりました。が、その分リハビリは厳しいと想像しておりました。

転院初日は色々な検査を先ず行い続いて、担当して下さる医師・理学療法士・作業療法士・言語聴覚士の方々の紹介等があり、その後は初日からリハビリが組まれており、私の長い闘病生活（入院生活）がスタートしたのです。私は左半身に麻痺があるため歩行はもちろんトイレや日常生活でのあらゆる場面で介助が必要なので、1人で何も出来ない自分自身に対して絶望と喪失感で心が折れた状態でしたが、天草病院のスタッフ達は皆さん笑顔で優しく接してくれて、徐々に沈んでいた気持ちにも変化が出てきました。心が安定してくるとリハビリへの意欲も自然と湧いてきました。リハビリは想像していた厳しい筋トレではなく、身体を動かすために必要な筋肉のマッサージ的な要素も多く気楽に取り組む事が出来、自主トレもして早く歩きたいと思うようになり、転院当初は立つ事さえ不安定な状態でしたが2・3週間位で1人で立つ事が出来て、トイレも介助なしで行えるまでに回復出来てきました。リハビリの効果は症状や麻痺具合によっても差があると思いますが自身の回復への強い意志と担当して下さるセラピストの方々の力のお陰と感じております。また、病院内の環境も自身の気持ちに大きく影響する事があり、そんな所からもしっかりリハビリに取り組む気持ちになれたのだと思います。

入院中にこんな出来事がありました。こちらに来てから1ヶ月半位経過した時に、約3年前から病気で闘病中の兄が亡くなったと訃報が入り、私は感情を抑えることが出来ずに

深い悲しみに号泣しておりました。そんな私に暖かく対応して頂き自分の事と一緒に悲しんでくれて、気分転換のために車椅子で外に出て話を聞いてくれ、また外出外泊の段取りなど先の事までも考えてくれて、まるで家族であるかの様な振る舞いに感激致しました。その後に、看護師、介護士、セラピストの方々スタッフ一同が連携してメンタルな所までも考えてくださっている事に気付きました。感謝と共にこの病院に入院している事が嬉しくなり、毎日が楽しく感じるようになりました。毎日を笑顔で過ごす事で病気にも変化があるのかりハビリも順調に思えます。さらには、笑顔で毎日を過ごす事で他の患者さんにも良い影響を与える事ができるようにさえも思えます。天草病院ではリハビリだけではなく入院生活全てが治療に繋がっていると私自身強く感じます。この病院環境だからこそ前向きになり楽しく出来ていると思うし、現在まだまだ回復の途中ですが杖で歩けるころまでになり、この先もっと回復していこうと思えるのは、天草病院に入院したからである事に間違いありません。

入院生活の中で週に3回あります入浴が一番の楽しみで、そこでは違う病棟の看護師さん達までもが私を覚えて頂きました。初めての入院生活ですが、入院なのに本当に楽しい毎日、院内全ての皆様には心から感謝し、この先の退院日まで、よろしく願い致します。本当にありがとうございました。

(投稿日 令和元年6月6日)

## 「感謝の言葉」

越谷市 木村 実千代

平成31年4月15日。平成もいよいよ最終を迎えたその晩、私は首の後ろの激痛で野田市

の小張総合病院を受診しました。診断は「クモ膜下出血」でした。そして、その数日後に脳梗塞を起こし、その結果左側に麻痺が残ってしまったようです。と言うのもその頃の自身の記憶は曖昧で「大変だったのよ。実ちゃん」と涙ながらに語ってくれたのは今、私の面倒を甲斐甲斐しくみてくれている実の姉です。その後、小張総合病院に1ヶ月半程入院し、ムツとする暑さの中この天草病院に移ることが出来たのは5月27日の事でした。天草病院では一週間の日程が土曜日に組まれ20分のリハビリが1日最大9コマ行われます。ある日の私の日記より・・・。「朝いちのセラピストの先生方の集合の瞬間素晴らしいと思う！」とありました。セラピストの先生方は朝ナースステーションにそれぞれの患者さんの資料を見に集まります。そして、それぞれがそれぞれのリハビリに向かって散っていくのです。その光景が私は大好きです。看護師さん、介護士さんはもちろん、日々の入院生活でもこの天草病院で初めて一緒になった4C病棟の仲間の皆さんに支えられ、毎日楽しく過ごさせてもらっています。病気をしなかったら気がつかなかった事がたくさんあります。病気になった当初は夜中起きた時に、動かない左手と左足を叩きながら泣いた事もありました。けれど明けない夜はありませんでした。車椅子から一人で立てた時、そして車椅子から杖歩行になった時、数々の達成感に包まれて今の私があります。ある時は笑い、ある時は涙を流して眺めたりリハビリ室からの景色は多分一生忘れないと思います。私に関わってくださった全ての方に感謝の言葉を捧げます。そして、この闘病生活を支えてくれた大好きな姉に感謝の気持ちを述べたいと思います。「本当にありがとう。生きていて良かった！」

(投稿日 令和元年8月8日)

## 「リハビリテーション天草病院の今昔物語」

リハビリテーション天草病院 事務次長 戸辺 良一

下記にご紹介する航空写真は、今年完了した病院の増改築工事の記念に撮影したものと、昭和60年頃に撮影した写真です。写真のうち丸く囲んだ部分が現在も唯一残っている建物です（実はこの部分も3階建てから4階建てへと変化しております）。

2つの写真を見比べると周辺の景色も含め30余年の様変わりがよくわかります。

### ＜令和元年の航空写真＞



### ＜昭和60年頃の航空写真＞



ちなみに、上の写真の左上に整備された駐車場ですが、実は住所地が春日部となります。

このように当院は越谷市と春日部市との市境となる大落古利根川と、川と呼ぶには心もとなくなってしまった会の川に接しており、ちょうど両市の中心部に位置しています。

このような地理的環境にも恵まれたお陰で、越谷市・春日部市および近隣の松伏町やさいたま市岩槻区にお住まいの方を中心とする広範の方にサービスを提供しております。

### ＜当法人の位置＞



往時を知る患者さん、職員も少なくなってきましたが、これからも地域に必要とされる病院であり続けるために、この地より越谷市・春日部市をはじめとする近隣市区町村にお住まいの方々へ、最良の医療・介護サービスをお届けしていきたいと思っております。

## 当老健における通所リハビリについて

介護老人保健施設シルバーケア敬愛 リハビリ部 副部長 石川 健太

介護老人保健施設シルバーケア敬愛は、リハビリテーション天草病院の併設型の介護老人保健施設で、入所されている利用者へのリハビリテーション（以下リハビリ）と、在宅から通われる利用者に対する通所リハビリテーション（以下通所リハ）を積極的に行っています。今回は、通所リハについてご紹介致します。

当施設の通所リハは越谷・春日部・松伏を中心に、送迎付きで施設に通って頂きリハビリを提供するサービスです。対象は要介護・要支援認定を受けた方となります。現在、1日の利用者は約120名で、近隣の施設と比べてもかなり大きな規模の施設となっています。当施設では理学療法士11名、作業療法士5名、言語聴覚士2名の経験豊かな療法士が在籍し、施設医師の指示を受け充実したリハビリサービスを行っていることが特徴です。個別のリハビリでは、各利用者やご家族のご希望や短期・長期の目標のもと、目標達成に向けマンツーマンでのリハビリを20分間実施しています。

療法士による個別のリハビリ以外に、介護スタッフによる立位・歩行練習や器具を使用した運動、マシンを使って筋力向上を図ることが出来るパワーリハビリ、療法士が安全を確認した上で実施する自主トレーニング等、運動の機会が多く提供されています。また言語聴覚士が中心となり、呂律が回りにくい・飲み込みづらい利用者に対して口腔機能の向上を目的としたリハビリにも力を入れて取り

組んでいます。

最近の取り組みとしては、作業療法士が中心となり、疎かになりがちな手や手指の機能に対して様々な物品を使用して行う自主トレーニングの試みも行っています。

通所リハの実施に当たっては、利用開始時にご自宅の訪問を実施しています。ご本人・ご家族の希望や、実際に生活されている環境の中で動作の確認等を行い、利用者にとって生活に則した最適なりハビリが出来るよう、計画書の作成を行います。

目標の達成度に合わせて、経過とともに最適なりハビリが行えるよう計画書は3ヵ月毎に見直しが行われます。

当施設はリハビリ以外でも、安全で快適な入浴設備で提供される入浴介助、管理栄養士が栄養バランスなどを考慮しメニューを立案する評判の良い昼食やおやつを提供、書道やフラワーアレンジメントといった活動等、利用者が充実した時間を過ごせるようなサービスを実施しています。

入院中、手厚いリハビリを受けて退院となった時、今後のリハビリの継続に不安を持つ方は多いと思います。当施設はそんな不安を持つ方に対し、医師や看護師、療法士、介護スタッフ、支援相談員、管理栄養士、歯科衛生士などの多職種が協力して、利用者が通所リハを通して生きがいを持ってご自宅での生活を楽しめることが出来るよう、全力で支援していきます。

## 編 集 手 帳

✦世界の政治・経済情勢が混沌とし、軍事衝突も相次いでいます。米国の「アメリカ第一主義」、中国やロシアのなりふり構わずの「覇権主義」、英国での「EU離脱問題」等々が入り交じって地球上には暗雲が漂っています。このような状況下にあっても日本国民は比較的安定した生活が送れておりますが、今後の朝鮮半島情勢などによっては決して油断はできません。不安を感じている方も大勢いらっしゃると思います。

✦こんな折り明るいニュースが飛び込んできました。今年のノーベル化学賞に旭化成名誉フェローの吉野彰博士が選ばれたのです。日本人の現役産業人としては田中耕一氏に続いて2人目の快挙です。これで科学分野での日本人受賞者は24人目となり、日本の「基礎科学・素材強国」を国内外に見せつけました。吉野博士の業績は、リチウムイオン電池の開

発であることは皆様ご承知のとおりです。リチウムイオン電池は、一度充電すれば長時間使え、携帯電話、パソコンなど多くの日常生活必需品に必要で、今後益々使用用途は増えて、私たちの暮らしを豊かなものに変えていくことでしょう。

✦ふと、お隣の韓国の「日本製品不買運動」が私の頭の中をよぎりました。日韓関係は戦後最悪で、何が目的か分かりませんが、文在寅大統領とその政権の「反日誘導政策」に煽られて、新聞やテレビ報道で見る限りでは、国民の一部か或いは多数かこれも分かりませんが、ヒステリックに反応しています。日本製ビールなどなど数え上げればきりがありませんが、ヒステリックに反応しています。日本への観光旅行中止もその延長線上にあるのでしょうか。ならば、リチウムイオン電池を使ったスマートフォンやノートパソコンに韓国人はどう対応しようとしているのでしょうか。

(理事長天草大陸)

## 当法人施設が取得する第三者評価認証

患者さんが病院を評価するには、その病院自身の「自己紹介」も参考になりますが、第三者の評価も重要です。当院では「病院機能評価機構」と「ISO」の認証を取得してます。

なお、老人保健施設でも「ISO」の認定を受けています。



### 表紙のことば

元々、麦わら帽子の職人として仕事をしていました。帽子作りは、言葉では表現できない楽しみがありました。病気になった直後は、何も考えられない状態でした。今回、作業療法の時間に作成して特別難しい物ではないけれど、職人に戻れた感じで達成感がありました。また、何かにチャレンジしたいというきっかけを作ってくれた作品になりました。

(A病棟入院患者様より)